



# 水の仲間たち

ちちぶ農協 大滝支店  
新井勉さん

川口市の水源地の一つになっている荒川。秩父市はその荒川の水源地です。

ちちぶ農協の皆さんは、川口市の「荒川ふれあいまつり」に毎年参加されるなど、

荒川流域地域との交流をずっと続けています。

今回は、水源地の水事情や流域地域との交流について、大滝支店の新井さんにお聞きしました。

## ●川口市との交流

―荒川ふれあいまつりに参加されたきっかけは？

**新井** 二〇〇〇年に行われた、荒川上流の旧大滝村(現秩父市)と下流の川口市の子どもたちが交流する「川口市子ども夢交流事業」が始まりました。川口市の市民団体の方々(現在の「荒川夢クラブ」と)の共同で行われました。この交流事業が縁となりまして、これ以降、「荒川ふれあいまつり」に参加させていただいています。

また、荒川ふれあいまつりでは、当時旧大滝村の子どもとして交流事業に参加した関谷峰子さんが、秩父市長のメッセージを今も代読してくれています。

## ●水源地での水の利用

―普段、水はどのように利用されているでしょうか。

**新井** 市の水道も使用していますが、沢水を引いてタンクに貯めた自家水道を使用している家もあります。自家水道は組合で管理しており、年2回ほど清掃を自分たちで行うため、身近なものという印象があります。

他にはおいしい湧き水を汲んできて、お茶やコーヒーを入れたりする方もいます。

## ―川と生活の関わりは

**新井** 昔は、林業で切り出した木を下流に流して運ぶために利用していました。

子どもころの川は遊び場で、魚もよく獲りました。ハヤ、ヤマメ、カジカなどです。

今は川で遊ぶのは危ないと言われる、昔とは違ってきました。我々にとって、川はいつでも綺麗なので、それが当然という感覚になってしまいました。下流域の方々とは川に対する感覚に違いはあると思います。

## ●今後の交流について

**新井** 子どもの数が少なくなっていますので、以前のような交流事業は難しくなると思います。平成二六年大滝地区では小学校が閉校となり、平成二七年三月で中学校も閉校になります。

しかし、流域との交流は続けていきたいと思っています。

―秩父のおすすめスポットは

**新井** 秩父でおすすめのスポットは三峯神社です。毎年一〇月下旬から「紅葉まつり」が開かれます。また、厳冬期になると「三十槌の氷柱(みそつちのつらら)」という、岩肌二面の氷柱を見ることが出来ます。ここは時期によつては夜間のライトアップもしている、とても綺麗です。

三十槌の氷柱・中津川の氷壁(ポスター)



ちちぶ農協の皆さん(荒川ふれあいまつりにて)写真右から新井勉さん、黒沢潔さん、関谷峰子さん

